

議事録

会議名	第5回壱岐市総合計画審議会
日時	令和6年11月12日10時00分～11時30分
場所	壱岐の島ホール 2階大会議室
参加者	別紙のとおり（※欠席者は本文中に記載）
内容	1. 開会 - 一般の傍聴並びに報道機関の取材及び撮影について了承を得た。 2. 会長挨拶 会長 本日は、第5回壱岐市総合計画審議会を開催いたしましたところ、大変お忙しい中ご出席賜りありがとうございます。 これまでに4回の審議会と3回のコアメンバー会議を開催してまいりましたが、前回は、計画の素案に対して委員皆様から活発なご意見をいただきました。 その後、事務局において整理された素案に基づき、約1か月間のパブリックコメントにより、市民皆様からの意見募集を行っております。 本日は、パブリックコメントの結果の報告と、市民意見を踏まえた計画案の修正内容等について、皆様にご審議いただきます。 予定では、本日が最後の審議会となっており、この後、市長への答申、議会への上程が予定されておりますが、まずは、本日の会議において計画内容に対し、慎重審議を行うことが重要であります。委員皆様の忌憚のないご意見をよろしくお願い申し上げます。 - 事務局より、欠席者の報告 【欠席】下条委員、市山委員、大久保(典)委員、高田委員 【代理】末永委員 → 松原清孝 氏 3. 協議事項 (1)パブリックコメントについて 事務局より資料の説明 ○質疑応答 委員A これまで散々この資料を見てきましたが、今更ながら気になった点があります。9ページの健康寿命の部分についてです。 おそらく、このデータの発出元によって定義が異なるのかもしれませんが、私がよく参照する厚生労働省のデータでは、男性の健康寿命が72.68歳、女性が75.38歳とされており、これが全国平均として示されています。また、健康寿命と平均寿命の差については、男性で約9歳、女性で約12歳というのが一般的なデータとしてよく使われています。 このデータと比較すると、この資料にある「男性の健康寿命が73歳」「女性が84歳を超え

ている」という記述は、正直なところ、実感としてはやや高すぎるように感じられます。恐らく、基準としているデータや定義が異なるために生じているのだと思いますが、私個人としては、厚生労働省が公表しているデータの方が現実に近いのではないかと感じています。

以上、健康寿命に関する点についての意見でした。ご参考までをお願いいたします。

事務局

厚生労働省が公表している数値と、こちらで使用している数値については、出どころや計算方法が異なることを確認しています。今回の計画書に記載しているデータについては、「国保データベースシステム(KDB システム)」に基づいた数値を使用しています。

具体的に申し上げますと、9 ページに掲載しているのは令和 4 年度の数値です。また、この計画書の 20 ページには「健康寿命の延伸」という項目で成果指標を掲げており、基準値として 2023 年時点で男性が 77.8 歳、女性が 83.6 歳としています。この数値も同じく KDB システムから得たものであり、令和 5 年度のデータに基づいています。

厚生労働省の数値は毎年公表されるものではないため、総合計画の進捗管理を毎年行っていくにあたっては、毎年数値が確認できる指標を用いる方が適切であると判断し、KDB システムのデータを採用しています。

委員B

まず感想としてですが、とても見応えのある内容だと感じており、何度も繰り返し読ませていただきました。

次に質問と、もしかすると修正が必要な点についてですが、まず質問から失礼いたします。20 ページ以降に記載されている基本目標の目標値について、先ほど見直されたとのことですが、こちらはそれぞれの部署の責任者、例えば教育関連であれば教育長などと十分に協議された上で見直されたという認識でよろしいでしょうか？

事務局

はい、各所管課の方から出していただいた数字でございます。

委員B

ありがとうございます。続けて質問させていただきます。

23 ページの最後の部分についてですが、表記に関して確認させてください。上部の黄色い丸の部分に「プロジェクトプラス」と記載されていますが、このままでは少し内容が曖昧に感じられます。たとえば、「プラス 7000」といった具体的な数値を含めた方が、見出しとしての明確さが増すのではないのでしょうか。見出しに数値を加えるべきか、ご検討いただければと思います。

事務局

文章に「プラス 7000」というのは入れているんですけども、確かにご指摘の通り、こちらの図の方にも入れた方がわかりやすいかと思いますので、そのように修正したいと思います。

委員B

次に、17 ページの「子育て・学び」の枠内に記載されている「学び直しリカレント」についてですが、この「リカレント」という言葉は、単独では使われることが少なく、一般的には「リカレント教育」と表現される場合が多いと思います。単に「リカレント」だけでは意味が曖昧になる可能性があるため、「リカレント教育」という形に修正することで、より意図が明確になるのではないのでしょうか。

さらに、デザインやレイアウトについてもいくつか気になる点があります。まず、5 ページと 6 ページの見出し部分ですが、見出しの色が違って見えるように思いました。これは印刷の関係でしょうか？もし特に意図がない場合は、色の統一を図ると一貫性が出ると思います。

また、19 ページの「分野別まちづくり計画」という大きな見出しですが、他のページに比べて少しサイズが小さいように感じました。せっかく魅力的なデザインが施されているので、見出しのサイズを統一することで、全体のバランスが良くなるのではと思います。

それから、11 ページのグラフについてですが、情報がぎっしり詰まっている分、字が小さく見づらい印象を受けました。仕方ない部分もあるかと思いますが、掲載している以上は重要な情報だと思いますので、もう少し見やすい工夫ができれば良いなと感じました。

最後に、中継ページについてです。先ほどの話の中で、ここにイラストが入るとのことでしたが、いくつかお願いがあります。1 つ目は、このイラストは非常に重要な要素だと思っています。これから目指す未来像を視覚的に分かりやすく伝える役割があるので、市民の方々がいろいろな場面で使えるものになると良いなと思います。たとえば、自分の島を紹介する際に「これが目指している島の姿だ」と示せるような形で活用できれば素晴らしいと思います。そのため、もしイラストレーターの方と契約される際には、著作権について、広く使用可能な形で契約内容にしていいただければと希望しています。

2 つ目のお願いは、このイラストの中に、これまで議論されてきた「つながり」を視覚的に表現していただけたらと思います。たとえば、人と人、人と自然、人とテクノロジーといったつながりを盛り込み、さらに多様性や包摂性といった要素も表現できれば、非常に価値のあるものになるのではないのでしょうか。他の自治体からも「ぜひ使いたい」と思われるような素晴らしいイラストに仕上がることを期待しています。

以上です。よろしくお願いいたします。

もう一点、最後に別件でお伝えします。感想のようなものとして受け取っていただければと思います。

例えば 12 ページの「住みやすさ」についてですが、高校生の方が「将来戻ってきたい」という意見など、どちらかというとポジティブな内容が多く取り上げられている印象を受けました。一方で、「戻ってきたくない」や「戻ることは考えられない」という意見がどの程度あるのか、またその原因がどのように分析されているのかが少し見えにくいと感じました。

同様に、住みやすさについて「住みにくい」と感じている人が例えば 18%いる場合、なぜそのように感じているのか、その背景や原因がどのように捉えられているのかが気になりました。また、平均寿命についても、全国と比べて低い理由について、具体的な分析や考察がどこに

反映されているのかが見えにくいように感じました。この部分は総合計画の最後の基本目標などで触れられているのかもしれませんが、その分析がどこに明示されているのかがわかりにくかったため、少し疑問に感じました。

以上、印象をお伝えしました。よろしくお願いいたします。

事務局

多岐にわたるご意見をいただき、ありがとうございました。

まず、見出しの色や大きさについてですが、こちらは現段階では試案でございますので、適切に修正させていただきます。ありがとうございます。

また、イラストについても非常に重要であるというご指摘、まさにその通りだと思います。今回、プロのイラストレーターに制作を依頼する予定ですが、いただいたご意見を踏まえ、いきいきとした表現を大切にしていきたいと考えております。また、市民の皆さまが広く利用できるよう、著作権等も含めた契約内容により、自由にお使いいただける形にしていければと考えております。

さらに、全体のレイアウトにつきましても、前回のご意見を受けて洗練されたデザインに仕上げるべく、調整を進めてまいります。大幅な変更はありませんが、いただいたご意見を反映して、さらに見やすく魅力的なものにしていきたいと考えています。

次に、アンケート結果についてのご指摘ですが、14 ページの「将来戻ってきたいと思わない理由」について、現時点では具体的な分析や情報が不足している状況です。今回のアンケート調査では直接お聞きしておりませんが、長崎県が一昨年度から実施している移住に関する理由の調査では、進学や就職など、さまざまな要因が明らかになっています。こうしたデータを参考にしつつ、必要であれば本計画にも反映できるよう検討してまいります。

以上でございます。

会長

よろしいですね。ありがとうございます。そのほか、ございませんでしょうか。

委員C

今ご説明いただいた、人口 2 万人維持のための数値についてですが、非常に重要なポイントだと思います。そのため、総合計画の中にこうした数字を具体的に盛り込むことが、より分かりやすくなるのではないのでしょうか。特に、基本目標の部分には、既に出生数や移住者数が記載されていますが、それに加えて、社会動態に関する具体的な目標値を示すことで、計画の現実性が伝わりやすくなると思います。

また、参考資料の 2020 年から 2025 年の数値と、計画書の 9 ページに記載されている社会動態や自然動態の実数とで、若干の不一致があるように感じました。この点について、現時点での数値の確認と整合性を取る必要があるのではないかと思います。そして、9 ページや 6 ページの表についても、可能であれば 2023 年までのデータを反映していただけると、より現状を正確に捉えられる内容になるかと思います。2023 年のデータは既に公表されているのではないのでしょうか。

さらに、基本目標 1 に記載されている「ふるさと納税返礼品支出額 9 億円」と、基本目標 6 の「納税寄附金額 30%以下」の記載ですが、これらは一部重複しているように見えます。せっかく目標を掲げるのであれば、重複を避け、他の重点項目を強調した方が良いのではないかと感じました。

加えて、「テレワーク施設利用者数」の項目ですが、これには「民間施設も含めて」という視点を加えるとより包括的な計画になると思います。計画書の概要版ではその記載で問題ありませんが、詳細版の方にも「民間施設を含む」旨が明記されていないようでしたので、補足的な記載があると良いと思います。

以上です。よろしくお願いいたします。

事務局

ありがとうございます。人口に関する 3 点のご意見をいただきました。

まず、シミュレーションを計画に反映することが難しい理由として、人口 2 万人を維持するためには出生数や社会動態だけでなく、多岐にわたる要素が影響しており、現時点で一つの数値に断定するのは難しいという状況があります。そのため、今回は参考資料として提示する形に留めているのが現状です。

次に、実績値との不一致についてのご指摘ですが、まさにその通りでございます。推計方法が異なることや、実際に生まれてくる子どもの数などが変動しているため、計画書と実績の間に差異が生じている部分がございます。この点についても、さらに確認を進め、可能な限り実際の数値に近づけられるよう検討してまいります。

委員C

例えば自然動態だと、2020 年から 2022 年までは載っていますけれど、平均すると 330 人くらいの減ですよ。2020 年以降で、まだ 2023、4、5 がいないんですけど。5 で割ることを考えたら、2023、4、5 の自然減が相当減らないと、このシミュレーションの 279 人にはならない。

事務局

社会動態についても同様に、2020 年から 2022 年までは平均で毎年 170 人程度の減少が見られることを理解しております。確かに、実績と人口シミュレーションを合わせるのは非常に難しい点です。シミュレーションは 5 年間の平均値で算出されるため、単年度での調整となると、どうしても 5 年分の按分が必要となります。この点については、再度調整が可能かどうかを検討させていただいてもよろしいでしょうか。

また、2023 年の実績値について、最新版の数字を反映させるべきというご指摘はもともとだと思います。出ている数字に関しては、最新版を配布させていただけるよう手配いたします。

委員C

人口関係のところって、国勢調査の人口とかなり差があると思うんですが、どの資料を使用しているのですか。

事務局

人口については、すべて国勢調査のデータをベースにしています。つまり、住民票の所在地ではなく、実際にその地域に住んでいる方の人数を基に推計を行っています。したがって、2050年に2万人を維持するという数字も、あくまで国勢調査を基にした人口推計であり、住民票がある場所に住んでいない方も含まれる可能性はありますが、実際にその地域に住んでいる方々の人口に基づいています。記載されている最新の国勢調査のデータは、2年ほど前のものになります。2024年10月1日の異動人口調査については、国勢調査をベースにしているため、こちらの表記に誤りはありません。

委員D

いろいろと勉強させていただきました。ありがとうございます。私は、今のままで2万人以上を維持するのは大変難しいと思います。生まれてくる子どもよりも亡くなる方が多い。勝本でも、年間60人から70人が亡くなっております。そういう中で、漁業組合の観点でちょっと話をさせていただきます。

今の組合は200人くらい、勝本は400何人いますけれど、これは10年経ったらもう3分の1はいなくなります。20年ではもう3分の1しか残りません。それはなぜかと言いますと、地球温暖化、そして海藻がなくなって、小魚が来なくなったおかげで、成魚が餌を求めて、沿岸に近寄らない。そして、10月から2月まで取れていたスルメイカが令和になってから、全く来なくなって、釣れていたマグロも全く来ません。そういう自然の状況はもう変えられない。

それで、壱岐にはやっぱり核というものを作らないと私はダメだと思っています。この洋上風力発電、うちの理事会でも苦渋の選択で、漁業者はすごく迷惑になりますけど、壱岐全体を考えた場合は、ぜひこれをやり遂げないといけないと思います。もし原子力一基分の風力発電機をやった場合、壱岐市に40億円の経済効果が生まれてきます。そして人が来ます。今の観光の35万人でも倍々になってくると思います。そうしたら、そこにも宿泊施設や経済効果が出てきます。そしてそのとき初めて、この計画にあるような取り組みがどんどん前向きに進んでいくと思います。

漁業者は将来を見据えて、私たちは風力発電を許可し、前向きに取り組んでおります。そして今、湯ノ本でやっているのは世界にない風力発電で、プロペラから音もしません。船外機くらいの音です。こういうペットボトルのような3本の柱が回るだけだから、14メガを作ってもそんなに大きな影響はないと思っています。やってみないと分かりませんが、これもいろいろ勉強しないといけないことですけど、漁業者だけではなくて、壱岐を救うためにはこれをやらないといけないと考えています。

もう7、8年、色々な角度で研究してきて、そして色々なところで勉強もしてきました。一番迷惑を被るのが漁業者です。その漁業者が、このままだと人口減の歯止めにもならないし、壱岐に何か核を作らないといけないと話しています。核となるものを作った時には、空港も整備してもらえるなど、いろんなことがしてもらえると思います。

私は今、組合長をやっておりますが、今いる者がやらなければならないと考えています。これを、壱岐全体の人が機運を盛り上げていかないといけないと思っています。そして、新聞記事で、よく勉強もしていない人の意見でああいうふうにかかれるのは非常に困っています。

やっぱり壱岐の島は電気の島にして核を作らなければ、人口減少の歯止めにはならないと思っています。私は、こういった取り組みが進むことで人口の問題も解決できると思っています。
以上です。

事務局

はい、ありがとうございます。私も以前、再エネを担当させていただきましたので、海に建てる難しさや厳しさについてはよく理解しています。今、電気の島という核をとの発言がありました。

総合計画とは、市全体でどのような形で進めていくか、いわゆる方向性を示す計画だと考えています。その中で、さまざまなプロジェクトや事業が進められていき、実施されていくという形になります。

今おっしゃった通り、現在、いろいろな実証事業を行いながら、これが本格的に実施されるとなると、おそらく市の中でもプロジェクト事業として位置づけられることになるものと認識しています。ですので、可能性がないということではないということで、全体の事業としてここに挙げているということをご理解いただければと思います。

そして、総合計画の分野別まちづくり計画の中で、先ほど少し触れましたが、再生可能エネルギーの導入率というものがあります。以前、この導入率について触れましたが、島と本土地域の間では、系統連携、つまり電気がケーブルでつながっていない状況です。

ですので、再生可能エネルギーの導入率を上げようとする場合、島内に太陽光発電や丘の上の風力発電などを増やしていくほか、今実施している水素の実証実験などを活用していく必要があります。現時点では、この再生可能エネルギーの導入率を目標として達成するのは厳しい状況ですが、再生可能エネルギーを進めないというわけではなく、あくまで導入率の問題です。したがって、こちらの目標を一旦削除させていただきます。

ただし、この分野別まちづくり計画の詳細版には、再生可能エネルギーに関する取り組みを継続的に進めていくことを掲載しておりますので、その点をご理解いただければと思います。

会長

分野別まちづくり計画(詳細版)の60ページに、様々な分野の利害関係を載せてあります。連携できる体制の構築に取り組むということですから、今言われたようなことは、ここで活かされてくると思います。決して取り上げないとかではなく、利害関係があるため、こういった形で進めているということをご理解いただきたいと思います。

委員E

最初のページから、市民の方に伝えたいところから始まっていて、とてもいいと思いました。言葉も概ね分かりやすい言葉で表現されていて、市民の方に寄り添って、目標を達成していこうというのが見えるんじゃないかなと思いました。

1点質問なんですけれども、この分野別まちづくり計画の19ページのところから、基準値と目標値というのがあって、目標版の出生数のところとか、移住者数のところというのは、この目標値が達成されれば、人口プラス7000のところを達成できるというイメージで間違いないです

か。

事務局

ありがとうございます。まず、21 ページの出生数についてですが、150 人という数字は一つの目安として設定しております。この数を維持できれば、最終的に 2 万人に到達するための目標となると考えています。

次に、移住者数についてですが、こちらは先ほどの別紙で説明した社会動態のデータと非常に関連が深い部分です。移住者数の目標としては 153 人を掲げていますが、この数字に加えて「出ていかない方」の数を考慮する必要があります。ただし、「出ていかない方」の数は目標には明記していないのが現状です。しかし、出ていかない方を増やすことを目標にするべきかどうかについては議論があり、前回の審議会でも委員の方々から、出ていくこと自体は決して悪いことではない、むしろ多様性を尊重し選択肢を広げることが重要だという意見がありました。

そのため、移住者数の目標を設定する際には、まずは移住していただく方々を中心に目標を掲げ、その方向性で進めるべきだと考えています。以上です。

委員E

分かりました。ありがとうございます。あと、少し分かりにくい点についてですが、まず「満足度指数ゼロ」という部分ですが、先ほど説明していただいた内容は理解できるのですが、パッと見たときに何を意味しているのかが少しわかりづらいと思います。もし、この指標に関する目標がゼロということを明示的に記載することで、さらに分かりやすくなると思います。

次に、5 ページの「生活必需サービス施設が立地する確率が 50%となる自治体の人口規模」という部分ですが、これは非常に市民が気になる数字を具体的に挙げていて、とても良いと思います。ただ、パッと見たときには、少し説明が不足しているため、何を言っているのかがわかりにくいかもしれません。もう少し詳しい説明を加えると、さらに理解しやすくなると思います。

また、6 ページに記載されている「横断プロジェクト」についてですが、この内容が前のページには出てきていないため、いきなり登場すると何のことを言っているのかが不明瞭になるかもしれません。次のページで説明されるのでしょうか？この部分についても少し前段階で触れておくと、スムーズに理解できると思います。

最後に、人口に関する目標ですが、2050 年の人口 2 万人という目標があり、後ろの 23 ページで「プラス 7000」という表記があります。これを見たときに、最初に「プラス 7000」という数字が出てくると、少し混乱する可能性があると思います。個人的には、「2050 年人口 2 万人」の目標がより明確に伝わりやすいので、数字が多くなると少し混乱を招くかもしれません。数字の使い方に少し工夫が必要かもしれません。

事務局

ありがとうございます。多岐にわたるご意見をいただき、感謝いたします。まず、交通の 22 ページの「満足度指数」についてですが、確かにこのままだと説明が不足していると感じます

ので、解説を追加するか、あるいは「満足度 50%以上」などの具体的な回答率を記載した方が分かりやすいと思います。いずれにしても、まずはしっかりとした解説を加えさせていただきます。

同様に、5 ページの「サービス施設が立地する確率が 50%以上」という表現についても、確かにこのままだと何が言いたいのかが分かりづらいので、こちらも解説を加えることで、より分かりやすくしたいと考えております。

最後に、23 ページの「プラス 7000」の表現について、確かに「2 万人」という目標があり、「プラス 7000」という数字が裏を返すと理解できるものの、直感的に分かりにくい部分があるかと思っています。こちらについても再度検討し、よりわかりやすい表現にするよう調整いたします。

以上、ご意見いただいた点について、改善案を検討させていただきます。ありがとうございました。

委員B

23 ページのところ、それぞれの対策が書いてあって、これ結構重要だなと思って見ていました。その中でも出生数に関して、どのようにすればより多くの方が子どもを産みたい、育てたいと感じるのかについてずっと考えていました。例えば、空いている部分に「教育の質の向上」といった項目を加えてみてはどうかと思いました。最終的には社会全体の安心感や安全感が大きな影響を与えると考えつつ、そこまで広くなりすぎるのは避けたいと思います。それに関連して、他の部分にも「学びの質」などの言葉があり、教育や学びの質もポイントになると思います。

事務局

ありがとうございます。確かに、教育の質の向上が子育てや出生に大きな影響を与える要素であることは確かです。こちらについても追加の方向で検討できればと考えております。

(2) 市長への答申 について

(事務局より、答申書案の内容について説明)

事務局

説明した内容に加え、本日頂いた意見も反映させます。

会長

本日の17時までには、今日出た意見の反映や修正も行うということですが、皆様、この内容で答申することを了承いただけますか。

各委員了承

(3) その他

会長

先ほど、パブリックコメント結果の説明の中で、分野別まちづくり計画(詳細版)に対するパ

ブリックコメントの必要性について事務局より伺いがありましたが、委員皆様のご意見を願います。

委員B

個人的には、中身の使われ方次第だと思います。例えば、今後何か取組を進めるうえで、「そこに書いてただろう」ということで、市民がその部分に対して何も意見を言えないような扱いをされるのであれば、この段階でパブリックコメントをした方が良いと思うし、そうではなくて、行政内部の扱いで、必要に応じて市民に問うたり、対応していくのであれば、特にパブリックコメントの必要性はないと思います。

事務局

詳細版の位置付けですが、基本的には市内部のそれぞれの事業、こうした取組をやっていきますということを載せたものと考えております。ただ、計画期間が5年なので、内容についてはおそらく変わっていくことも考えられます。内容に変更があれば、参考資料という位置付けをしておりますので、修正を行う必要があると考えております。また、各課においては、個別計画を持っており、その内容との整合が図られています。おそらく、個別計画を策定する際には、パブリックコメントを行って計画作りがされますので、重複するところでもあります。

私共としましては、分野別まちづくり計画と言った時に、市民の方にとりどのような形で伝わるのが良いかということこれまで検討してまいりました。その中で、最終的には、素案の中にイラストやKPIを付けて、こういった取組をやっていきますことを示し、細かな内容については、詳細版の方に記載をしておりますという形で考えており、この詳細版についてはパブリックコメントを取るという考えは当初ありませんでした。しかし、実施後、このような意見がありましたので、今皆様にご意見をお伺いしたところでございます。

会長

使い方によって違ってくると思いますが、今回パブリックコメントはやらないけれども、当然、意見等については寄せて頂いて良いということで整理して宜しいでしょうか。

各委員了承

委員B

一点だけ質問です。この分野別まちづくり計画の詳細版は、ホームページ等で公表されるのでしょうか。

事務局

はい。

委員B

であれば、掲載する際に、位置付けについても説明を載せた方が良いと思います。

事務局

ご意見のとおり、分かりやすく伝わるよう表記します。

会長

他に何かございませんか。

委員C

今見返してて思ったのが、これ、ページの順番を入れ替えたせいで、6ページまで行かないと2025年から2029年の計画であることが分からない。表紙に入れるようにしてほしい。

事務局

確かに分かりにくいので、表紙に入れるようにします。

会長

今後のスケジュールはどうなっていますか。

事務局

本日17時より市長への答申を行いまして、その後、市の内部の企画総合調整会議という会議を開いて、各部長等に最終的な内容確認を行います。必要な修正等を加えて完成した最終案を12月議会に上程したいと考えております。

会長

審議会の開催はどうなりますか。

事務局

委員の委嘱期間は令和7年3月までとなっていますので、例えば、その間に総合計画に関する協議が必要な事項が生じれば、またお声掛けさせていただくこととなりますが、一旦は本日が最後となります。

3. 閉会

事務局

本日は慎重審議ありがとうございました。

最後に、企画振興部 塚本部長よりご挨拶を申し上げます。

企画振興部長

本日は、長時間にわたり、慎重審議いただきありがとうございました。また、委員の皆さまにおかれましては昨年10月から本日まで、長期間にわたり、ご審議いただきましたことに重ねて御礼申し上げます。

総合計画は、壱岐市の最上位の計画であり、光ある将来像を実現するための方向を示すものでございます。

特に今回の策定にあたっては、基礎調査となるアンケート調査の対象を拡大し、多様なご意見をいただくとともに、審議会のコアメンバーや市若手職員のプロジェクトチームを編成し、現状・課題の分析や意見交換を重ねるなど、これまでにない手法も取り入れ、多くの方に関わって頂いたと思います。

今後、第4次総合計画の施策を進める中で、財源の確保を含めて、具体的な事業となる振興実施計画を作成する形となっております。各部署が再度調整をし、確実に進めていくことをお約束して、御礼の挨拶とさせていただきます。

事務局

以上で第5回審議会を終了させていただきます。本日は誠にありがとうございました。